

第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

1 日時 平成29年2月15日(水) 午後3時～午後4時45分

2 場所 青梅市役所 206会議室

3 出席委員

森田会長、加藤委員、山本委員、小澤委員

4 議事

(1) 協議事項

① 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の進捗状況および今後の展開について

② 政策パッケージについて

(2) その他

(配布資料)

資料1 主な総合戦略事業の進捗状況および今後の展開

資料2 政策パッケージ1 おうめ版ネウボラ事業

資料3 政策パッケージ3 おうめ版多世代交流センター事業

| 発言者 | 会議のてん末・概要 |
|-----|--|
| 会長 | <p>(開会)</p> <p>時節柄、インフルエンザが大変流行しており、市内の学校では学級閉鎖だとか学年閉鎖があちこちで発生していると聞いている。</p> <p>さて、当懇談会は、平成27年に策定した「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に関することを担っており、昨年8月に第1回目の懇談会を開催した。</p> <p>今日は、総合戦略に掲げる各事業の進捗よく状況と、新年度の予算案がまとまったということで、今後市議会での審議を経ていくわけだが、予算に盛り込まれた今後の事業展開について確認をしていきたい。</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>「①青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の進捗よく状況および今後の展開について」、資料1-1を用いて基本目標1について事務局から説明がなされた。</p> |
| 会長 | <p>確認すると、総合戦略は3つの基本目標を立てている。それぞれの目標の達成に向けて、重点的に取り組むべき事業が掲げられている。</p> <p>今回配布されている資料は、特に動きのあった事業についてピックアップしたものととなっている。</p> <p>本日の協議は、重要業績評価指標いわゆるKPIを見てみると、その結果にプラスやマイナスが生じている状況がある。そのような状況の中で、ここに記載されているような事業や取組が効果的なものとなっているか、もっと加速していくべきでは、また、委員の立場や分野の中で、参考とするべき取組事例などがあれば発言をいただきながら進めいきたい。</p> <p>意見等については、市の所管部署が勘案のうえ事業を進めていっていただくということをお願いしたい。</p> <p>基本目標ごとに進めていくので、基本目標1について意見があれば。</p> |
| 委員 | <p>学童保育の待機児童が増えているということで行き場がないという印象を受ける。施策のなかの放課後子ども教室事業で受け皿を早急に準備していくことが必要ではないか。</p> <p>例えば、自治会などで多世代が交流できる場所を提供していく考えがあれば、そういうようなところを準備し、子どもたちの居場所づくりを進めていってもらいたい。</p> |
| 事務局 | <p>自治会館を利用した子どもの居場所ということを考えているところである。また、多世代交流についても、子育てひろば事業のなかで高齢者を招いて読み聞かせや昔遊びを教えるなどの機会を設けている</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>学童保育や保育所は、定員をオーバーしているということだが、今後共働き世帯が増えていくことによって、待機児童解消という当初の目標を立てていても、追いつかないということも考えられる。</p> <p>区部などでは、大きなマンションに転入してくると保育所が追いつかないと聞いている。青梅市では推計値と事業展開がマッチングしているのか。</p> |
| 事務局 | <p>子ども・子育て支援事業計画のなかで推計値をしている。現状と推計値とで多少の誤差が生じているため、計画の中間年でもあることから平成29年度に見直しをする予定である。</p> |
| 会長 | <p>推計のもとに対応しているということだが、増えることは決して悪いことではない。対応が間に合わないということにはなってしまう。</p> |
| 委員 | <p>全般的に、まっとうな取組だとは感じる。</p> |
| 委員 | <p>サタデースクールについて具体的な取組内容を聞きたい。</p> |
| 事務局 | <p>学力については、大変低いランクにあることから、すべての中学校区で第2・第4土曜日に子どもたちを集めて基礎学力の定着を図ろうと、スクールを開催している。</p> |
| 会長 | <p>サタデースクールは、この辺りでは珍しい取組なのか。あまり聞かないが。</p> |
| 事務局 | <p>東京都内で土曜日に行っているのは珍しい。放課後等に外部指導員で行うものは、青梅市だけでなく他の地区でも行っている。また、他の地区では塾の指導員を招いて放課後等にやっている例もある。</p> <p>サタデースクールは3年前から開始し、28年度に全10校ある中学校の学校区で行っている。対象児童・生徒の3～5%が登録しており、参加率はその半分程度となっている。</p> <p>指導員は、元校長や教員、地域の若い方等が担っており、自学自習ということで国語・算数・理科についてドリル形式による個別指導となっている。</p> |
| 委員 | <p>対象は中学生か。</p> |
| 事務局 | <p>対象は小学校4年生以上としているが、中学3年生は減ってしまう。また部活等もあり中学1年生くらいまでの利用が多い。</p> <p>今後は、小学校3年生を対象とすることについて検討している。</p> |

| | |
|-----|---|
| 会長 | いい取組だと思う。売りになるのではないかな。 |
| 委員 | 今度は指導要領が変わり、英語が必修となり成績がつくようになるため、このような塾的な取組が増えてくると思う。 |
| 会長 | 英語も追加を。 |
| 事務局 | 発音面の問題もあり、人の確保が課題となると思う。 退職された校長がコーディネーターとして活躍されている。 |
| | 「①青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の進捗よく状況および今後の展開について」、資料1-2を用いて基本目標2について事務局から説明がなされた。 |
| 会長 | 基本目標2について意見をお願いしたい。 |
| 委員 | 青梅市の認知度とはどのような形で調査したものか。 |
| 事務局 | 認知度については、平成27年度に総合戦略を策定するにあたり、主に首都圏を対象とする市外在住者に対し、インターネットでの意識調査として青梅市の認知度、来訪歴・頻度、イメージを把握することで交流人口増加に向けた取組をするための基礎資料として実施した。 具体的には青梅市を除く東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に住む方で、サンプル数は409ある。青梅市の名前を耳にしたことがあるという設問に対し、95.1%という結果を得た。その後の調査は機会を捉えて実施する。 |
| 委員 | 認知度と言っても、名前を知っている程度。 お客さんのなかには、青梅は八王子の先にあると思っていたといった声もある。都内からみると、立川から先はよくわかっていない。 |
| 委員 | そういう方もいる。 青梅の認知度を高めるために、動画などは使っているか。 例えば、鳥取県では図書館の使い方や鳥取砂丘のことなどがすべて動画になって紹介されている。この方法であれば若い方や外国人も容易に見ることができる。お金も非常にかかるのかもしれないが、若い方がアクセスしやすい動画をコンペで作るというのも面白いと思う。 |
| 委員 | 福生市ではすでに取り組まれている。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>青梅市では、魅力発信事業ということで転入された方に対し、青梅市の地域資源を知っていただくという趣旨で温浴施設等の利用券を進呈する事業を行っている。これを拡大し、市のホームページを活用して魅力発信というテーマで取り組んでいきたいと考えている。それが定住促進につながるような可視的なコンテンツを検討したい。動画については近隣での実績もあるのでそういったところを研究し、魅力発信のホームページを整えていきたい。</p> |
| 会長 | <p>ホームページの運営は自前のものか。</p> |
| 事務局 | <p>職員が随時更新できるようなものになっている。</p> |
| 委員 | <p>インターネットやSNSで情報が色々な形で伝わっていき、その結果として青梅に訪れるということが多くなってくると思うが、アナログ的に観光を紹介する拠点は必要だと思う。</p> <p>青梅駅のすぐそばに観光案内所があるが、私が知る限り青梅に来てそこに立ち寄る人はいないと思っている。というのは、見落としがちな場所、つまり死角となっ てしまっている。もっといい場所に欲しいというのは常々思う。</p> |
| 委員 | <p>海外ではI(アイ)マークというのがInformationということで万国共通で使われているので、そういったマークを目立つようにして目を引き誘導できるといい。</p> |
| 事務局 | <p>確かに案内所の活用というのは課題として捉えている。</p> <p>今後、外国の方にも見てもらえるような自動翻訳のような形の案内の導入を検討している。観光戦略プロジェクトのなかでも継続的なプロモーションが必要ということで、SNSを活用した幅広いプロモーションをかけていくことを考えている。</p> <p>梅の里の再生に関連して、植樹祭の画像をJRと連携して吉祥寺から八王子まで駅構内のデジタルサイネージに動画で流して、梅の里への来訪をPRしている。</p> <p>そういったことから、時代にあったツールを使った観光のプロモーションということが必要であり、そういった方策は先行して取り組むべきとして検討している。</p> |
| 会長 | <p>情報発信というのはそういうことだと思うので、どちらかという若い人たちのツールをうまく使うということがいいのではないかな。</p> |
| 委員 | <p>旅行者を含めて、SNSは必須であるし、案内の多言語化も早急にやることだと感じている。</p> <p>区部ではパンフレットなども多言語化されており、外国の方向けには絵や写真も大きくするなど工夫しているのを見たことがある。</p> <p>そういったところに学生を活用することも考えられる。青梅市と連携している大学</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>もあると思うので、学生を活用することによって、若者ならではの視点で考えられる。また地元の中学生など学校を巻き込んだ、地元で見たパンフレットづくりやSNSの発信などもいいのではと感じている。</p> |
| 会長 | <p>様々な情報の発信方法があると思う。</p> <p>取組や検討が進められているということだが、外に向けて情報をどんどん発信するということが重要。</p> |
| 事務局 | <p>インバウンドを対象とした情報発信の一端として、国の交付金を活用したWIFI設置について観光エリアを中心に154か所に設置した。</p> <p>懇談会からも観光を重視していくべきという意見をいただいております。観光戦略プロジェクトのメニューにはインバウンドや情報発信力ということを目玉としているので、本日の指摘を受けましてはオリンピック・パラリンピックを契機とした呼び込みや情報発信力の強化に努めていきたい。</p> |
| 会長 | <p>オリンピックはいい機会だと思っている。</p> <p>前回の東京オリンピックの前後で日本が変わった。今回も様々な面でチャンスである。外国の方が日本に来てわかりづらいという意見があるとすれば先に解消しておかないと、その時になって観光もということに対応できなくなる。</p> |
| 委員 | <p>SNSなどでの情報発信は影響力が大きいと思うが、実際には、市町村などの当事者側が流した情報にはあまり反応がなく、そこに遊びに来た方が撮った動画が拡散され、その結果来訪につながっている。写真ではなく動画だったため、より良さが伝わった。</p> <p>我々が情報を流すだけでなく、流される仕組みを作ることがとても重要である。我々が面白いと思っていることよりも、実際に面白いと思った人の感想や体験の報告の方が、影響力がはるかに大きいというのが現実。ということは、コントロールできないというところが難しい。</p> |
| 事務局 | <p>青梅市には、SNSについて公式アカウントがない。実際に、他の自治体ですすでに取り組まれている。平成29年度から公式アカウントを持って発信をしていこうと計画をしている。</p> <p>市からの発信だけでなく青梅市を訪れた方が発信をしていただけるような仕組みを作っていきたい。</p> |
| 会長 | <p>ひとつのつぶやきが大きな影響を与えるような実態がある。いい取組だと思う。</p> |
| 委員 | <p>空家バンクの実績はどのような事例だったのか聞きたい。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>物件については、千ヶ瀬地区で、空家バンクに登録してからかなり早い段階で売買契約まで結びついた。なお、現在登録があるのは、河辺地区と小曾木地区である。利用のされ方としては住宅利用である。</p> |
| 委員 | <p>青梅が観光地であるので、地方でよくあるのは、旅行先での簡単な宿泊に空家を使っており、その改修費を自治体が支援していると聞く。</p> <p>そういった意味で、住宅から住宅ではなく、ひと手間加えて活用するような空家バンク利用というのがあるといいのでは。</p> |
| 事務局 | <p>空き店舗活用の補助制度があり、個人の方が空き店舗を活用して創業する場合には改修費を支援しようとするものである。創業支援センターでの創業塾を受けてノウハウを学び、補助金を活用して開業し、創業支援センターで継続的に経営をサポートしていくということを実施している。現在3件の実績がある。</p> |
| 会長 | <p>宿泊所は経営が難しい。</p> |
| 委員 | <p>御岳あたりだと考える人はいる。</p> |
| 会長 | <p>そういったところだといふように思う。</p> <p>外国人が来て、宿泊施設を提供するのは簡単ではない。店舗での物販などは適していると思う。</p> <p>「①青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業の進捗状況および今後の展開について」、資料1-3を用いて基本目標3について事務局から説明がなされた。</p> |
| 会長 | <p>基本目標3について意見をいただきたい。</p> <p>ちなみに、市民会館の跡地については動き始めている。祭りなど様々なことに配慮されているということで、いいものができそうだと感じている。</p> <p>自治会について意見はあるか。</p> |
| 委員 | <p>若い人が自治会に入らないということはどこでもある話だと思うが、防災や孤立する母子などのことを考えると、やはり大切な組織である。若い家庭や一人暮らしでも自治会に入るような、引っ張り出して入ってもらえるような方策はないものか。</p> |
| 会長 | <p>重要性の認識は全く同意見である。昔は家に年寄りがいて孫の面倒をみていた。若い夫婦も助けられていた。今は、若い夫婦だけで、保育園にも入れない実状もある。こういったことも含めて、うまく循環するような。自治会活動が安全・安</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>心も含めたことについて大事であるという認識なく加入を拒んでいる。そこをどのように気持ちを向けさせるかが大事である。</p> |
| 委員 | <p>自治会はコミュニティの基本だと思うが、自治会とコミュニティが別物のように捉えられている。浸透していないようにも感じる。</p> |
| 事務局 | <p>自治会とは先日、連携協定を結んだ。自治会の位置づけを住民の方に説明するときに、わかりづらいという話もある。市と連携して相互に対等な立場で協力し合うということを明文化した。そうしたことが加入促進ということにも役にたつのではないか。</p> <p>先日講演会を開催したが、その中で、従来はごみの回収など加入のメリットがあった。そういったメリットであった部分が、行政サービスとなって自治体を実施することになり、加入していなくてもサービスを受けることができるようになった。</p> <p>横浜市の例で、自治会加入率が高いということだが、自治会単位でごみの集積場がある。青梅市では個別収集となりメリットを感じづらくなっているのかもしれないが、そのほかにも防災面など重要な取組をしている。</p> <p>また、「すまいるカード」というのがあり、加入世帯は市内商店で買い物する場合の割引がある。そういったことを通じて加入率を5割に戻していきたい。</p> |
| 委員 | <p>私の住む地域は田舎っぽさがあり、加入していないと肩身が狭いくらいで、加入者は多いが、役員が回ってくると大変で、その押し付け合いがある。役員が負担にならない形であれば加入しやすくなるのかもしれない。</p> |
| 委員 | <p>PTAも同様といえる。</p> |
| 委員 | <p>私の住む地域は、ごみ収集が個別化されてから自治会が解散となった。</p> <p>自治会加入の時に、2世帯住宅で親夫婦と子ども夫婦がいても子ども夫婦は出てこず、2世帯でも1つの世帯となっている。自治会事態が年寄りの集まりとなり、最終的には冠婚葬祭での集まりになり、最終的にメリットがないということで解散となった。若い世帯の取り込みには苦勞されていると思う。</p> <p>自治会については、多世代交流センターの取組にも関連してくると思うので、そういうものをPRしながら拠点となる施設というのは地域の交流という面で重要。</p> |
| 会長 | <p>ひとたび事が起きると大事さがわかると思うが、普段はなかなか。隣近所でも顔がわからないような現状がある。難しいが大事なことである。</p> |
| 委員 | <p>それぞれの自治会での面白い取組について情報を知る機会があるといい。</p> |

| | |
|-----|--|
| 会長 | <p>雪かきなどでも、その地域のつながりの強さが見てとれる場合がある。</p> <p>今井地区のサイクルアンドバスライドはいい取組である。バス停に行くまでが大変で、自転車が置けるのはいい。</p> <p>ケミコンの跡地利用について意見は。</p> |
| 委員 | <p>官公庁が集約されるといいのではないかと個人的には思う。コンパクト化ということが言われているので、そういった考えで進められるといい。</p> <p>「②政策パッケージについて」資料2を用いておうめ版ネウボラ事業について事務局から説明がなされた。</p> |
| 会長 | <p>この後の多世代交流センター事業についても同様だが、完成されていない事業なので、委員から提言や事例などについて発言をお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>この事業は、妊娠・出産を迎える女性が登録するような形で流れに参加していくということか。どうやってネウボラ事業に引き入れていくのか。</p> |
| 事務局 | <p>引き込み方、参画していく仕組みについても合わせて検討材料となっている。</p> <p>例えばフィンランドのネウボラで行っている育児パッケージの贈呈を28年度から開始した。これは、妊産婦を対象としており、これを機会として保健師との顔の見える面接につなげていこうとするもの。また、SNSなどを活用する手法もひとつの選択肢になる。</p> |
| 委員 | <p>妊娠や出産はプライベートなことなので難しいと思うが、自然に参加する方もいれば距離を置く方もいる。コミュニティでのつながりが無い方などは無知なまま過ごしてしまう場合もある。どこの段階でそういった情報をどのように拾い上げ、アプローチしていくかという部分はセンシティブな問題なので、他の事例なども参考としながら取り組んでいくことも必要。</p> |
| 会長 | <p>「おうめ子育てねっと」はすでに開設されているのか。</p> |
| 事務局 | <p>開設している。市の事業として子育て団体に委託して運営している。既存のツールを活かしていけないかということで検討を進めている。</p> |
| 会長 | <p>接点をどうやって作るかだと思うが、知れば青梅でもこんなことをやっているんだとなる。インターネットを自ら見ようとしないう方もいる。積極的に市が取り組もうとしていることをどうやって知ってもらうか。</p> |

| | |
|----|--|
| 委員 | インターネットだけでなく、可視化できる、形のあるものを駅など目にとまりやすい場所で配布していくことも必要。 |
| 会長 | 特に妊娠された方が立ち寄れる場所などで、目に入れば知るきっかけになる。 |
| 委員 | 妊娠期から始まらなくても、途中からでも参加できるシステムであることも必要で、子どもを抱えてシングルマザーになり困っていることもある。また未就学だけでなく就学後も一連の支援が見える形や取組になるといい。 |
| 会長 | 家族が単体になってしまっているのが、子育ても大変だと思う。知識がなくても、子育ては毎日のことなの、そこを応援できるようにするにはどうしたらいいか。 |
| 委員 | <p>昔は、母親は子どもを背負って家事をやっていた。母親の家の中での仕事はたくさんあったが、子どもを抱えていることが問題ではなかった。今の女性の方の生活を見ていると、子どもがいることがハンデになってしまっているケースが非常に多くて、それに対して何をしてあげられるかということになる。</p> <p>ひとつは、子どもがいる、あるいはこれから持とうとしている女性がいて、どういうことに困るんだろうかということ想定して、それを事前に用意しておくことが重要。</p> <p>子育てしている方に、周りの方が「えらいね」と言う。すると嬉しくなり元気が湧き、なんでもできるようになったという話を聞いたことがある。そういったところに同感する。そういった心が足りていないように感じる。</p> <p>応援されていると、応援してくれる方は味方と捉えられるので、相談もしやすくなる。どこに相談していいかわからないというのは、自分の味方がどこにいるかわからないという状況。</p> |
| 会長 | 男性も女性も、例えば65歳で定年を迎え、自由な時間ができる人たちとマッチングができて面倒が見てもらえるようなことができるといい。 |
| 委員 | <p>自分は共働き世帯であり、保育園の延長保育制度がなかったため、仕事で遅くなる時などに一時的に面倒を見てくれる。また、子どもが急病のときにどうしていいかわからないときに、近所の看護師に看てもらったこともある。</p> <p>SNSなどインターネットの世界は、自分で見に行かなければ情報はつかめない。また、インターネットを使用しない方もいるとすると、困った時に聞くことができる相談窓口があるといい。</p> <p>子育てサークルなどは、新参者は入りづらさがあると思う。そういうものに背中を押してもらえるようなものがあれば参加が進むのでは。</p> <p>保育園でも熱が出たときに、基本的には預かってくれないが、医療機関と連携して対応している保育園もある。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>病気の子どもを預かるNPOがとても増えてきている。青梅になくてもそういったところにつながるような。なんでも相談できる場所があるといい。</p> |
| 委員 | <p>就学前だけでなく就学後までを含めたネットワークづくりが望ましい。</p> <p>「②政策パッケージについて」資料3を用いておうめ版多世代交流センター事業について事務局から説明がなされた。</p> |
| 会長 | <p>先ほど話にあがっていた時間が自由になった方が、過去に得た知識を提供してくれたり、学習ができるなど、こういったことは進めていってもらいたい。</p> <p>学校帰りに立ち寄り英語などを学習することができるといい。</p> |
| 委員 | <p>そこにいてくれるだけで子どもにとってはいい。目があれば安心できる場所にある。</p> |
| 委員 | <p>地域人材が自分のキャリアを活かせるように登録制度、地域人材バンクのような仕組みはあるのか。</p> |
| 事務局 | <p>社会教育課では生涯学習の登録制度がありそこに登録してもらい、講座などを開催してもらおうといったものがある。これが多世代交流センターにつながるかということは今後の課題である。</p> |
| 事務局 | <p>サタデースクールは自治会館を使っているものもあり、地域にいる元教員や大学生なども参加して子ども達の勉強を教えている。</p> |
| 委員 | <p>そういうところでやっているということを市民はどのように知ることができるのか。</p> |
| 事務局 | <p>生涯学習の関係では、ハンドブックを出しているので、紙ベースのものやホームページで周知はしている。</p> <p>サタデースクールは、学校単位となるので学校が周知をしている。</p> |
| 会長 | <p>多世代交流センターは、学校がやっているものとは別のイメージか。事業そのものは構想中ということか。</p> |
| 事務局 | <p>別のものである。地域のなかでのコミュニティのあり方のひとつとして考えていきたい。</p> <p>実際には、自治会のなかではこれに似た事業にすでに取り組んでいるところも</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>ある。従来の自治会活動が多世代の交流であった。そういった子育て支援を自治会の協力のもとに重点的に進めていくといったところでもあり、モデルケースになる。</p> |
| <p>会長</p> | <p>何かひとつ先例をつくれるといい。それを膨らませていき、他の自治会に波及させていく。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>ひとつのきっかけとして、市民提案協働事業のなかで毎年いくつかの行政テーマを投げかけ、それに市民活動団体と協働できるものは取り組んでいる。今回、そのテーマに多世代交流を入れることで、リーディングプロジェクトが築けるといいのではと考えている。</p> |
| <p>会長</p> | <p>本来、政策パッケージは3つあり、もうひとつが中心市街地活性化事業である。これについて、特別に取り上げないが、8月の懇談会で説明があったとおり、昨年6月に内閣府の認定を受けたということで、成果があがっている。</p> <p>青梅駅前再開発を基幹事業として、青梅駅を中心とする周辺地域の活性化を図ることによって、青梅市全体への波及効果が期待されるので、着実に取り組んでいただきたい。</p> <p>事務局の方で、それぞれの意見を踏まえて検討し、具体化に向けて進めていただきたい。</p> <p>本懇談会は、平成28年度としては最後ということになるので市長からひとこといただきたい。</p> |
| <p>市長</p> | <p>本日も、委員の皆さまから、総合戦略にもとづく今後の青梅市のまちづくりにつきまして、大所高所からのご意見・ご提言をいただきまして大変ありがとうございます。</p> <p>平成27年12月に、皆さまのお力添えのもとに策定いたしました総合戦略ではありますが、時間の流れとともに、社会の状況は変化を続けております。</p> <p>その社会変化に取り残されることなく、先々を見据えた新たな施策を展開していくことが大変重要であると思っております。</p> <p>大企業の撤退や人口減少など克服すべき課題は尽きませんが、梅の再植栽が一部地域で認められた、あるいは中心市街地活性化基本計画が国の認定を受けた、また、ドイツを相手国とするホストタウンに登録されたなど、28年は活力ある青梅に向けて端緒をつかんだ年でもあったと思っております。</p> <p>この懇談会におきましても、それぞれの分野における変化や新たな動きなどを活発な意見交換のなかでお伝えいただき、市としてそれらを積極的に施策に反映させていくといった姿勢で臨んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p> |

| | |
|-----|--|
| 会長 | 他に事務局からは。 |
| 事務局 | 今年度の懇談会の開催は本日をもって終了となる。 来年度については、28年度外部評価、進ちよく状況の報告に対して指導をいただきたい。 |
| | 以上で本日の議事は終了した。 |
| | (閉会) |